

歴史とみどりの町



■甚目寺町

J I M O K U J I

広大な濃尾平野に広がる愛知県海部郡の東北部（名古屋市の隣）に位置し、東西は4.2km、南北は4.8km、面積は9.33km²で公共交通機関として、中央部を名鉄津島線が東西に走り、国道302号、東名阪自動車道が南北に縦断しており交通至便の町です。

産業面では、昔から伝統産業が豊かなところであり、家内工業を主体として形成された産業の刷毛・刷子の生産高は日本一といわれ、全国の約60%を占めています。

農業面では、古くから尾張大根の愛称で知られている「方領（ほうりょう）大根」が有名です。方領大根は、市場に出回っている青首大根とは異なり、全体が純白で根っこ部分が細く曲がっているのが特徴で、尾張徳川家のお墨付きを得て尾張大根の名で親しまれてきました。また、甚目寺町のブランド野菜「小松菜」は、県下一の質・量を誇っています。

また、本町には甚目寺観音や萱津（かやつ）神社があり、甚目寺観音には、国指定の重要文化財として「南大門、三重塔、東門」、県指定の文化財として「仁王像、梵鐘、愛染明王坐像」の歴史的文化遺産が多数あります。また萱津神社は「全国で唯一の漬物の祖神」を祀る神社と



甚目寺観音



香の物祭

して広く知られており、毎年8月21日には「香の物祭（漬物祭）」が厳かに行われ全国各地より大勢の漬物業者で、賑わいます。

これらの観光資源を花と緑のプロムナードや水辺の並木道を利用しながら、各観光拠点を結ぶ「観光＋文化＋緑＋水」のネットワーク作りを進め、交流と活気あふれるまちづくりを目指しております。

甚目寺町ホームページ <http://www.town.jimokuji.aichi.jp/>